



作品集を「披露いたします。力作揃いと感じます。
参加者の方、大席にもかかわらず投稿していただいた方、ありがとうございました。
いましだ。

(作品の上の数字は出席者による得票数を示します。)

短歌の部

- 4 蕃椒の枝の赤き芽わずかに膨らみて胸とまめかす春浅き庭

岡部の手

- 2 冬枯れの街並み行けば白こたつ梅の香に知る春の訪れ

岡部の手

- 3 奥多摩の梅の里へと分け入れば白梅の花波しぶきのよう

岡田寿美子

俳句の部(季節・春浅し)

- 3 黒猫が日向ぶんころ浅き春

岡部泉

- 3 鶴は鶴に羽をやすめて春浅し

伊藤博

- 1 いまだ春浅き庭かな猫むむる

伊藤博

- 4 南天の樹を揺する風春浅し

伊藤博

- 0 春浅し熊の手じゃれて雪まみれ

松下啓一

□ 2 春めきよ通勤電車の軽くなり 山野辺茂

□ 0 物干しのシヤツびるがへり春めきぬ 山野辺茂

□ 1 東川薔はかなく春淺し 荒木章

□ 2 目頭のかゆみ始める淺き春 荒木章

□ 1 ゲレンデの雪解やかなり淺き春 荒木章

□ 1 春淺しビニールハウスに陽が揺れる 江守治雄

俳句の部(季語=梅)

□ 1 梅一輪曲がりへむいた枝の先 岡部泉

□ 3 白梅に青き空なる後かな 伊藤博

□ 2 梅が枝の伐りとりたなる道かごし 伊藤博

□ 0 梅林を愛すし老むたる夫婦かな 伊藤博

□ 2 梅もなかな明神下す求めびり 岡田寿美子

□ 1 気もよそら梅桃桜持ちわびる 並木由美子

□ 0 梅開きモノクロームに紅梅ど 松下啓一

□ 2 梅ひちりん 舞臺なせに負ひるなと 山野辺凌

□ 3 微笑みの梅一輪のあるバスノ 山野辺凌

□ 1 梅の字の落首とよき花見かな 荒木章

□ 2 材木屋曲がりて植木屋白き梅 江守裕雄

□ 1 五線譜に音符のせたる梅の花 中川素緒美

今回欠席の方の作品

春淺き聲見し野辺に鳥の啼く京の葉すれの道ノとゆかし

中川竜

春淺き京の葉すれの道ゆかし 中川竜

舞臺に卒業した梅の舞に春休みは、こころ京都を染めたバスノがあります。

あす11時訪れたらこのことか京都の街の正すれとあたる藤藤野イコた(た)たきこの「春休舞」この歌の舞合を見たい足さ神正したのイコた。

目的の場所は、源氏物語にも登場する、じつたな昔々有名な野宮神社とこのバスノイコたが、3月の京都正まじゆし寒く、前日に正舞を降ったらこイコたせこか訪れる人影はまはらイコた。

そのあたり一帯はな大な竹林や有名なバスノイ、見上げれば舞こたバスノイもやると葉すれの音がし、葉漏れ陽が降りかかっイコたのは舞こたはこま

東風吹か正なるかな野辺に送らした白こ流バスノな梅正咲へん

ち

中川竜

秘めたるまぶしき花はすな梅の花

中川竜

野の梅のこぼれは續く無垢の雪

島田和弘

まなし家に春待つ梅香る

島田和弘

妙壽の梅の開花は十月、昨年、妙壽に遊して来たときの思い出です。
二月の今頃、梅の枝はしつかりと雪に覆われ春を待つています。
ただ、山奥には寒さをさそいがり、手入れのめだたぬ庭先に梅だけが
咲いてくれるのを見かけます。

悠越しの一瞬の梅、春の旅

島田和弘

出張中の列車、悠越の山々を境に景色は一変します。毎日雪ばかり見ていると、車窓を横切る花の姿は正しくありません。
雪国の春は一言に花開きます、持ち越してきます。

梅の香を遠く梅の香の涌み立ち

阿部美穂

梅と輪と輪焼みの温かみ

阿部美穂

11052521100クイナ

春浅し、四方かたに漂う 死者の声

阿部美穂

春浅し、腹刺しウナギ関西か

阿部美穂

11052521100クイナ

道貫を慕ひて飛ぶは白梅々大宰府にあり堂々としてあり

須

藤麻季

菅原道實(845年～903年)ゆかりの『飛梅伝説』。

概要は、菅原道實が、901年 大宰権帥(なまごのしらべのそと)に任ぜられ、

